

# Roland JD-Xi

## 取扱説明書



### アナログ + デジタルのクロスオーバー・シンセサイザー

- ・アナログ回路から生み出される本物のアナログ・シンセ・サウンドと、ローランドが誇るブロスベックのシンセサイザー音源 SuperNATURAL SYNTH を融合。
- ・パワフルでユニークなサウンドを、自由自在に表現できます。

### パターン・シーケンサー

- ・思いついたフレーズやドラム・パターンを直感的に録音できる、パターン・シーケンサーを搭載しています。録音方式は TR-REC、リアルタイム録音、ステップ録音から選べるので、鍵盤演奏が苦手な方でも簡単にループ・トラックを作ることができます。

### 多彩なボーカル機能

- ・声を使って独特の音が作れる Vocoder、AutoPitch 機能に加え、声のピッチで鍵盤を演奏できる Auto Note 機能を搭載しています。声だけでも楽しく遊べる機能が満載です。

### パソコンや他の機器との同期

- ・演奏や声をパソコンの DAW に録音できる USB AUDIO / MIDI を搭載しています。また、他のハードウェアをつないで同期演奏ができる MIDI 端子を搭載しています。USB や MIDI を使って、さまざまな機器と一緒に楽しむことができます。

## 目次

各部の名称とはたらき	2	パターンの再生と録音をする	10
トップ・パネル	2	パターン・シーケンサーの基本操作	10
リア・パネル	3	TR-REC	11
はじめに	4	リアルタイム録音	11
JD-Xi の概要	4	ステップ録音	12
電源を入れる／切る	4	TR-REC、ステップ録音、リアルタイム録音以外の録音方法	12
音色（プログラム）を選ぶ	5	JD-Xi 全体の設定をする	13
お気に入りの音色（プログラム）を使う (Favorite)	5	システム設定をする (SYSTEM)	13
演奏する	6	Menu 画面を表示する	14
アルペジオ演奏をする	6	工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット)	14
ピッチ・バンドやビブラートをかける	6	データのバックアップと復元をする	14
鍵盤の音域をオクターブ単位で変える	6	市販のマイクを使うための設定をする	15
ポルタメント設定画面へのショートカット	6	他の機器と同期や録音をする	15
Favorite Bank の切り替えかた	6	クリック・アウトを右側だけに出力する	15
マイクを使う	7	ショートカット一覧	16
マイクの代わりに外部機器を使う	7	トラブルシューティング	17
音色をエディットする	8	安全上のご注意	18
プログラムの音の流れ	8	使用上のご注意	18
音の明るさや太さを決める (FILTER)	8		
音の鳴りかたを決める (AMP / ENV)	8		
音をうねらせる (LFO)	9		
音に迫力や広がりをつける (EFFECTS)	9		
プログラムやエフェクトの設定をする	9		
音色（プログラム）を保存する (WRITE)	9		

## 取扱説明書（本書）

最初に読んでください。使いかたの基本操作を説明しています。

## PDF マニュアル（Web からダウンロード）

- ・ **パラメーター・ガイド**  
本機のすべてのパラメーターについて解説しています。
- ・ **MIDI インプリメンテーション**  
MIDIメッセージの詳細資料です。

## PDF マニュアルの入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。  
<http://www.roland.co.jp/manuals/>
2. 製品名「JD-Xi」を選んでください。

本機を正しくお使いいただくために、ご使用前に『安全上のご注意』と『使用上のご注意』（『安全上のご注意』チラシと取扱説明書（P.18））をよくお読みください。また、本機の優れた機能を十分ご理解いただくためにも取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

© 2015 ローランド株式会社本書の一部、もしくは全部を無断で複製・転載することを禁じます。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

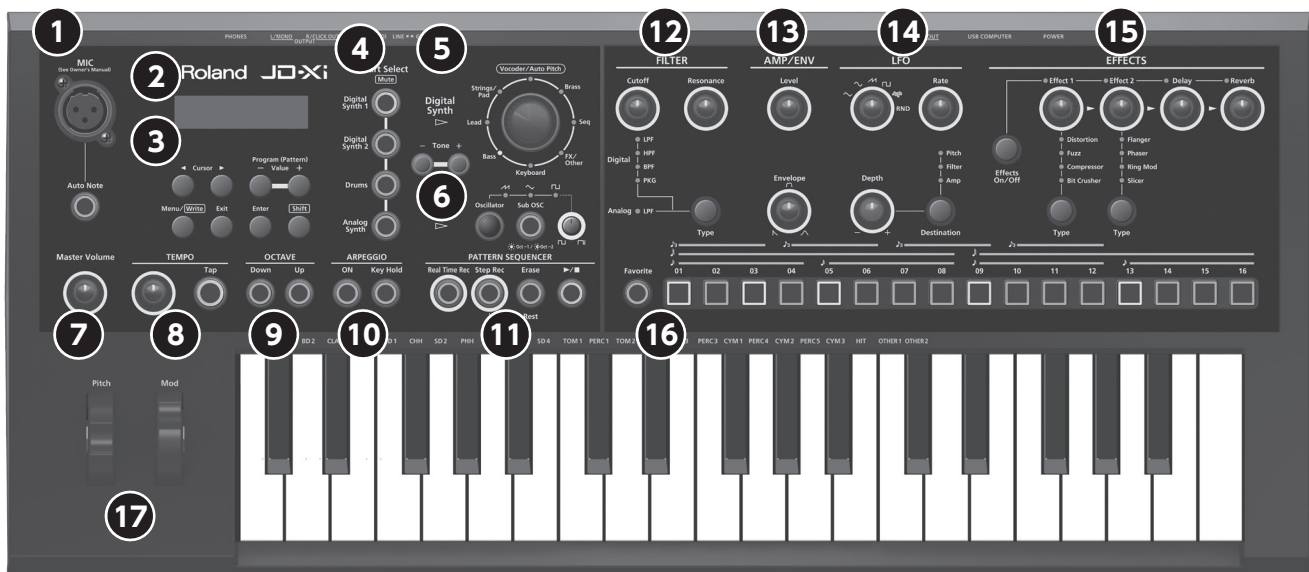
Español

Português

Nederlands

# 各部の名称とはたらき

## トップ・パネル



### 1 マイク

7 ページ

#### MIC 端子

付属のマイクをつなぎます。リア・パネルの INPUT 端子に外部機器が接続されているときは、INPUT 端子が優先されます。

※ 市販のマイクを使うときは、必ず SYSTEM の Mic Sel パラメーターを [Other] にしてください (P.15)。

#### [Auto Note] ボタン

オート・ノート機能をオン/オフします (P.7)。

### 2 ディスプレイ

操作に応じていろいろな情報を表示します。

※ 本書では、画面を使用して機能説明をしていますが、工場出荷時の設定（音色名など）と本文中の画面上の設定は一致していないことがあります。あらかじめご了承ください。

### 3 操作

#### Cursor [◀] [▶] ボタン

カーソル位置を左右に移動します。

#### Program (Pattern) Value [-] [+] ボタン

プログラムを選びます。

[Shift] ボタンを押しながら Value [-] [+] ボタンを押すと、バンクを切り替えることができます。

各設定画面では、値を変更します。

#### [Menu/Write] ボタン

Menu 画面を表示します。

[Shift] ボタンを押しながら [Menu/Write] ボタンを押すと、エディットしたデータを保存することができます。

#### [Exit] ボタン

元の画面に戻ります。

画面によっては、実行中の機能を中断します。

#### [Enter] ボタン

値の確定や操作を実行します。

#### [Shift] ボタン

他のボタンやつまみと組み合わせると、各機能に関する設定画面を表示します。

### 4 Part Select (Part Mute)

5 ページ

鍵盤で演奏するパートを選びます。

### 5 Digital Synth

5 ページ

Digital Synth パートや Drums パートのトーンを選びます。

### 6 Analog Synth

5 ページ

Analog Synth パートのトーンを選びます。

### 7 Master Volume

#### [Master Volume] つまみ

OUTPUT 端子、PHONES 端子から出力する音量を調節します。

### 8 TEMPO

#### テンポつまみ

アルペジオやパターン・シーケンサーのテンポを決めます。

#### [Tap] ボタン

設定したいテンポの4分音符のタイミングで [Tap] ボタンを3回以上押し、テンポを変更することができます。

### 9 OCTAVE

6 ページ

#### [Down] [Up] ボタン

鍵盤をオクターブ単位で上げ下げします。

### 10 ARPEGGIO

6 ページ

鍵盤で和音を押さえるだけでアルペジオを演奏させることができます。

### 11 PATTERN SEQUENCER

10 ページ

鍵盤の演奏やつまみの操作を記録し、くり返し再生することができます。

### 12 FILTER

8 ページ

フィルターの設定をします。

### 13 AMP/ENV

8 ページ

音量や音量の時間的変化を設定します。

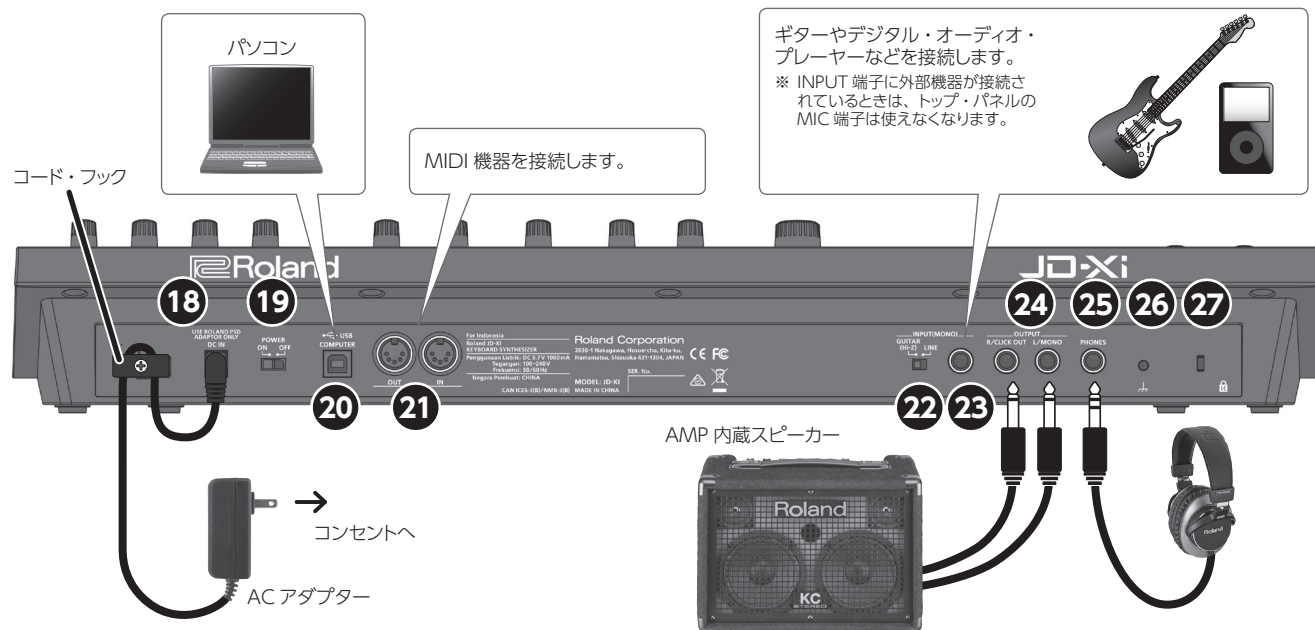
**14 LFO** **9 ページ**  
他の音声信号などをLFOで変調することによって、ビブラート、トレモロなどの効果を加えることができます。

**15 EFFECTS** **9 ページ**  
エフェクトの設定をします。

**16 Favorite/Pattern Sequencer** **5 ページ**  
お気に入りの音色を管理したり、パターン・シーケンサーを操作したりします。 **10 ページ**

**17 ピッチ・ベンド／モジュレーション** **6 ページ**  
ピッチ（音の高さ）を変化させたり、ビブラートをかけたりします。

## リア・パネル



ギターやデジタル・オーディオ・プレーヤーなどを接続します。  
※ INPUT 端子に外部機器が接続されているときは、トップ・パネルの MIC 端子は使えなくなります。

※ 他の機器と接続するときは、誤動作や故障を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞り、すべての機器の電源を切ってください。

**18 DC IN 端子**  
付属の AC アダプターを接続します。  
※ AC アダプターのコードは、図のようにコード・フックに固定してください。誤ってコードを引っ張ってしまっても、プラグが抜けて電源が切れてしまうことや、DC IN 端子に無理な力がかかることを防ぐことができます。

**19 [POWER] スイッチ**  
電源をオン/オフします (P.4)。

**20 USB COMPUTER 端子**  
市販の USB2.0 ケーブルでパソコンに接続することで、USB MIDI でパソコンの DAW に同期したり、USB オーディオで JD-Xi の音を DAW に録音したりすることができます (P.15)。

**21 MIDI 端子 (IN/OUT)**  
他の MIDI 機器と MIDI メッセージの送受信をするときに接続します (P.15)。

**22 LINE/GUITAR 切り替えスイッチ**  
INPUT (MONO) 端子の入カインピーダンスを切り替えます。接続する機器に応じて、LINE と GUITAR を選ぶことができます。

**23 INPUT (MONO) 端子**  
ギターやデジタル・オーディオ・プレーヤーなどを接続します。  
※ 抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、INPUT (MONO) 端子に接続した機器の音量が小さくなる場合があります。抵抗の入っていない接続ケーブルを使用してください。

**24 OUTPUT (L/MONO, R/CLICK OUT) 端子**  
スピーカーをつなぎます。  
モノラルで出力するときには L/MONO 端子につなぎます。  
メトロノームのクリック音だけを分けて出力できます (P.15)。

**25 PHONES 端子**  
ヘッドホンをつなぎます。

**26 機能接地端子**  
設置条件によっては、本機や本機に接続した機器（マイクやギターなど）の金属部に触れると、ビリビリとした感じがする場合があります。これは人体にまったく害のない極めて微量の帯電によるものですが、気になるかたは接地端子（図参照）を使って外部のアースか大地に接地してお使いください。このとき、わずかにハム（うなり）が混じる場合があります。なお、接続方法がわからないときはローランドお客様相談センターにご相談ください。  
**接続してはいけないところ**

- 水道管（感電の原因になります）
- ガス管（爆発や引火の原因になります）
- 電話線のアースや避雷針（落雷のとき危険です）

**27 盗難防止用ロック (SECURITY LOCK)**  
市販の盗難防止用セキュリティ・ワイヤーなどを接続することができます。  
<http://www.kensington.com/>

## JD-Xi の概要

### コントローラー部

コントローラー部は、演奏する部分です。たとえば「鍵盤を弾く」といった演奏者の動きを音源部に伝え、発音させるはたらきをします。

本機のコントローラー部には、鍵盤、ピッチ・ベンド/モジュレーション・ホイール、パネル上のボタンやつまみが含まれます。

### 音源部

音源部は、音を発生させる部分です。コントローラー部から送られてきた演奏情報を受けて、音の基本となる波形を電氣的に作り出し、音の明るさや音の大きさを決めて、さまざまな「音」を鳴らします。

本機の音源部は、音を決めるさまざまな要素（波形や音の高さ、音の明るさ、音の大きさなど）が、パネル上のつまみやボタンを使ってすぐに変えられるようになっています。

### プログラム

Digital Synth 1、Digital Synth 2、Drums、Analog Synth の4パートで構成されています。

エディットしたプログラムは、ユーザー・プログラムに（バンク E～H に各 64 個）保存されます。

### トーン

パートごとに 1 つのトーンを選ぶことができます。

※ アナログ・シンセ・トーンは、オシレーター、サブ・オシレーター、フィルター部分をアナログ回路で構成しています。

### エフェクト部

本機には 4 系統のエフェクターが内蔵されています。エフェクトの設定はプログラムに保存されます (P.9)。

### アルペジオ

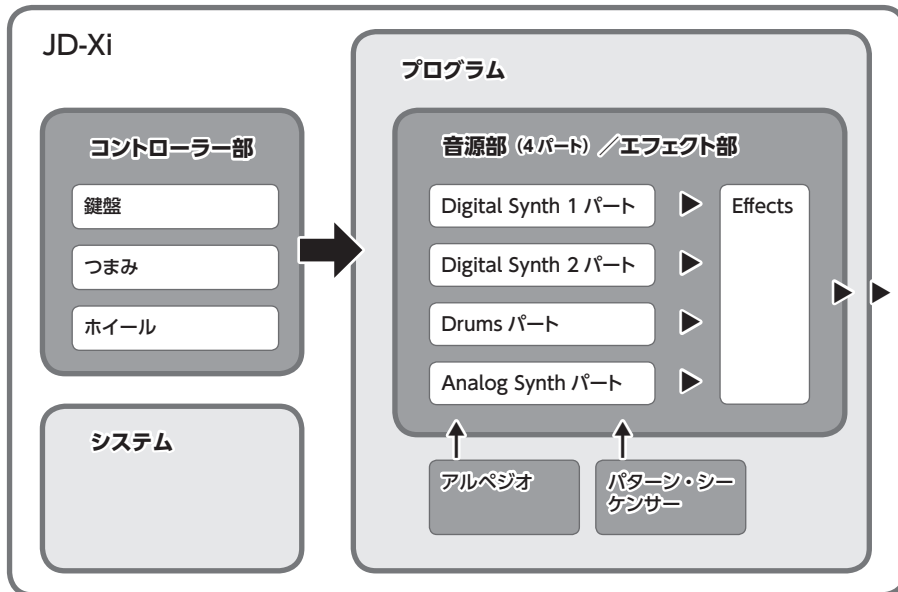
この機能を使うと、押さえたキーにしたがって自動的にアルペジオを演奏します。アルペジオの設定はプログラムに保存されます (P.6)。

### パターン・シーケンサー

数小節のパターンを再生しながら、演奏することができます。自分のオリジナル・パターンを作成してプログラムに保存することもできます (P.10)。

### システム

JD-Xi の動作環境を決めるシステム・パラメーターの設定を記憶しています (P.13)。



プログラム	バンク	番号
プリセット・プログラム	A～D	01～64
ユーザー・プログラム	E～H	01～64

## 電源を入れる／切る

※ 正しく接続したら (P.3)、必ず次の手順で電源を入れてください。手順を間違えると、誤動作をしたり故障したりすることがあります。

※ 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

### 1. 電源を入れる前に次のことを確認してください。

- ・スピーカーやヘッドホンが正しく接続されていますか？
- ・接続している機器の電源がオフになっていますか？

### 2. トップ・パネルの [Master Volume] つまみを左いっぱいまで回します。

### 3. リア・パネルの [POWER] スイッチをオンにします。

※ 本機は回路保護のため、電源をオンにしてからしばらくは動作しません。

### 4. 接続している機器の電源を入れて、音量を適当な位置まで上げます。

### 電源を切る

#### 1. 電源を切る前に、次のことを確認します。

- ・接続している機器の音量は最小になっていますか？
- ・作った音やパターンは保存しましたか？

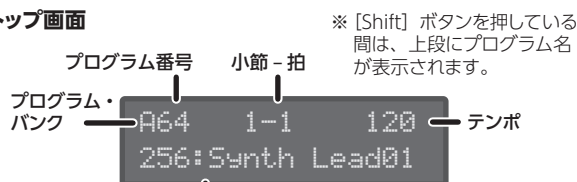
#### 2. 接続している機器の電源をオフにします。

#### 3. 本機の [POWER] スイッチをオフにします。



## 音色 (プログラム) を選ぶ

### トップ画面



トーン番号: トーン名

※ トーン番号が表示されない音色は、プログラムごとにエディットされた音色です。音色を切り替えたり、エディットしたりしたあとで元の音に戻りたい場合は、[Shift] ボタンを押しながら [Enter] ボタンを押します。

※ [Shift] ボタンを押している間は、上段にプログラム名が表示されます。

### プログラムを選ぶ

#### 1. Program (Pattern) Value [-] [+] ボタン押してプログラムを選びます。

[Shift] ボタンを押しながら Value [-] [+] ボタンを押すと、バンクを切り替えることができます (プリセット・バンク A~D、ユーザー・バンク E~H)。



### 演奏するパートを選ぶ

#### Part Select ボタン

#### [Digital Synth 1] ボタン

#### [Digital Synth 2] ボタン

#### [Drums] ボタン

#### [Analog Synth] ボタン



#### 1. 演奏するパートの Part Select ボタンを押します。

### メモ

複数のパートを同時に選んで演奏することはできません。ただし、パターンに録音すれば複数のパートの音を鳴らすことができます。

### トーンを選ぶ

#### Digital Synth 1 / 2 パート

#### カテゴリー・ダイヤル (カテゴリー・インジケーター)

音の元になるカテゴリーを選びます。点灯しているインジケーターのカテゴリーが選ばれています。



#### Tone [-] [+] ボタン

トーンを選びます。

1. Part Select ボタンで Digital Synth 1 / 2 を選びます。
2. カテゴリー・ダイヤル (カテゴリー・インジケーター) を回して、音の元になるカテゴリーを選びます。

※ Vocoder/AutoPitch は 1 パートのみで使用可能です。また、Vocoder/AutoPitch を選ぶと、Analog Synth パートが選べなくなります。

#### 3. Tone [-] [+] ボタンでトーンを選びます。

#### Drums パート

#### Tone [-] [+] ボタン

トーン (ドラム・キット) を選びます。



1. Part Select ボタンで Drums 選びます。
2. Tone [-] [+] ボタンでトーン (ドラム・キット) を選びます。  
Drums パートは、鍵盤ごとに楽器 (インスト) を鳴らすことができます。インスト名は鍵盤の上部に「BD1」のように印字されています。

### Analog Synth パート

#### [Oscillator] ボタン (波形インジケーター)

Analog Synth パートの音の元になる波形を選びます。点灯しているインジケーターの波形が選ばれています。

⌘ (のこぎり波)、~ (三角波)、□ (矩形波)



#### [Sub\_OSC] ボタン

Oscillator に音を重ねます。1 オクターブ下 (点灯)、2 オクターブ下 (点滅) が選べます。サブ・オシレーターは矩形波のみです。

#### パルス・ワイズつまみ

パルス・ワイズを設定します。Oscillator に □ (矩形波) が選ばれているときは、矩形波の上部の幅 (パルス・ワイズ) を、全体の何%にするか設定できます。値を小さくするほど狭くなり、矩形波 (パルス・ワイズ= 50%) に近づきます。値を大きくするほど広くなり、クセのある音になっていきます。

#### Tone [-] [+] ボタン

トーンを選びます。

1. Part Select ボタンで Analog Synth 選びます。
2. Tone [-] [+] ボタンでトーンを選びます。

### メモ

[Oscillator] ボタンで音の元になる波形を切り替えることができます。

## お気に入りの音色 (プログラム) を使う (Favorite)



#### [Favorite] ボタン

お気に入り音色 (プログラム) を登録したり呼び出したりします。

#### [01] ~ [16] ボタン

Favorite 01 ~ 16 を選びます。

#### Favorite を呼び出す

1. [Favorite] ボタンを押して点灯させます。番号ボタンが Favorite 選択ボタンになります。
2. [01] ~ [16] ボタンを押して Favorite 音色を選びます。登録されていないボタンを押すと、画面に「Not Registered!」と表示されます。

#### Favorite を登録する

1. お気に入りの登録したいプログラムを選びます。
2. [Favorite] ボタンを押しながら、登録先にしたい [01] ~ [16] のボタンを 1 つ押します。現在選んでいるプログラムが登録されます。

#### ご注意!

エディットしたプログラムは、先にプログラムを保存してから Favorite に登録してください (P.9)。

#### Favorite を消去する

1. [Favorite] ボタンがオンのとき、[Erase] ボタンを押しながら消去したい [01] ~ [16] のボタンを押します。

#### Favorite Bank を切り替える

→ [Favorite Bank の切り替えかた] (P.6)

# 演奏する

## アルペジオ演奏をする

ARPEGGIO [ON] ボタンを押して、ボタンを点灯させると、アルペジオ機能がオンになります。「アルペジオ」とは、和音を分散して鳴らす演奏方法です。



### ARPEGGIO [ON] ボタン

アルペジオ機能をオン/オフします。

### ARPEGGIO [Key Hold] ボタン

ホールド機能がオン/オフします。

1. ARPEGGIO [ON] ボタンを押して、ボタンを点灯させます。
2. 鍵盤を押さえます。  
アルペジオが演奏されます。

### アルペジオ・スタイルを選ぶ

1. [Shift] ボタンを押しながら、ARPEGGIO [ON] ボタンを押します。
2. Value [-] [+] ボタンでアルペジオの演奏スタイルを選びます。
3. Cursor [◀] [▶] ボタンでパラメーターを切り替え、Value [-] [+] ボタンで値を変更します。
4. 設定が終わったら、[Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

### テンポを変える

1. テンポつまみを回します。  
または、設定したいテンポの4分音符のタイミングで [Tap] ボタンを3回以上押し、テンポを変更することができます。

### メモ

- ・テンポはプログラムごとに保存します。  
→ 「音色 (プログラム) を保存する (WRITE)」 (P.9)
- ・テンポはパターンと共通です。

### ホールド機能を使う

1. ARPEGGIO [Key Hold] ボタンを押します。  
ホールド機能がオンになります。ホールド中に別のコードに弾き直すとアルペジオも変わります。

### メモ

アルペジオがオフのときに、ARPEGGIO [Key Hold] ボタンを押すと、Key Hold がオンになります。ダンパー・ペダルを踏んだときのように音を持続させることができます。

### アルペジオをエディットする

1. [Shift] ボタンを押しながら、ARPEGGIO [ON] ボタンを押します。



### メモ

[Menu/Write] ボタンを押して「Arpeggio Edit」を選んでも、同じ画面が表示されます。

2. Cursor [◀] [▶] ボタンで設定する項目を選びます。
3. Value [-] [+] ボタンで値を設定します。  
→ パラメーターについて詳しくは、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。
4. 設定が終わったら、[Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

### 保存する

作った音は、つまみを動かしたり、別のプログラムを選んだりすると変わってしまいます。また、JD-Xi の電源を切ると消えてしまいます。気に入った音ができあがったら、プログラムとして保存しましょう。  
→ 「音色 (プログラム) を保存する (WRITE)」 (P.9)

## ピッチ・ベンドやビブラートをかける

### [Pitch] ホイール

ピッチ (音の高さ) を変化させます。手前に回すとピッチは下がります。奥に回すとピッチは上がります。ホイールから手を離すと、中央に戻ります。



### [Mod] ホイール

ビブラートをかけます。一番手前のときには効果はかかりません。奥に回すほど効果は大きくなります。ホイールから手を離しても、離れた位置から動きません。

## 鍵盤の音域をオクターブ単位で変える

### OCTAVE [Down] [Up] ボタン

鍵盤をオクターブ単位で変えます (最大±3 オクターブ)。オクターブが変更されているときは、OCTAVE [Down] [Up] ボタンが点灯します。OCTAVE [Down] [Up] ボタンを同時に押し、値は0に戻ります。  
※ Drums パートには OCTAVE [Down] [Up] ボタンは効きません。



### メモ

オクターブ設定はパートごとに設定可能で、プログラムに保存します。  
→ 「音色 (プログラム) を保存する (WRITE)」 (P.9)

## ポルタメント設定画面へのショートカット

1. [Menu/Write] ボタンを長押しします。  
PORTAMENTO 画面が表示されます。
2. [Exit] ボタンを押すと、この画面を抜けます。

ボタン	説明
[Tap] ボタン	ポルタメントの ON / OFF を切り替えます。
[Tempo] つまみ	ポルタメント・タイムを変更します。

## Favorite Bank の切り替えかた

Favorite は 16 個の Bank で構成されています。1 個の Bank には 16 個のお気に入り音色 (プログラム) を登録することができます。

1. [Favorite] ボタンを押して、Favorite モードに入ります。
2. [Shift] ボタンを長押しすると、[01] ~ [16] ボタンのいずれかが点滅します。  
点滅しているボタンが、現在の Bank を表しています。
3. 点滅していないボタンを押すと、Bank が切り替わります。  
たとえば、[01] ボタンが点滅している場合、[02] ボタンを押すと、Bank01 から Bank02 に切り替わります。

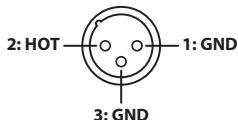
### メモ

Favorite に登録したときに選ばれていたパートを記憶します。Favorite を変えると、記憶したパートが選ばれた状態で呼び出されます。たとえば、Analog Part をすぐに呼び出したい場合、Favorite 登録時に Analog Part を選んだ状態で登録しておけば、呼び出し時、Analog Part が選ばれた状態で呼び出されます。

## マイクを使う

※ 市販のマイクを使うときは、必ず SYSTEM の Mic Sel パラメーターを「Other」にしてください。また、市販のマイクを使うときは、INPUT の Level パラメーターを調節してください。

※ 本機は XLR タイプの入力端子を装備しており、図のように配線されています。接続する機器の配線をご確認のうえ、接続してください。



※ マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音（キーンという音）が出ることがあります。その場合は、以下のように対処してください。

- ・ マイクの向きを変える
- ・ マイクをスピーカーから遠ざける
- ・ 音量を下げる

### 1. 付属のマイクを MIC 端子に接続します。

接続したら、マイクの向きや角度を調節します。

付属のマイクの代わりに、市販のダイナミック・マイクや INPUT 端子に接続した機器を使うこともできます。

### INPUT 端子に機器を接続すると、マイクは使えません

MIC 端子と INPUT 端子の両方に機器を接続した場合は、INPUT 端子を優先する仕様になっているため、マイク端子は動作しません。マイクを使うときは、INPUT 端子から機器を取りはずしてください。

### 設定する

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで「SYSTEM」を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. Cursor [◀] [▶] ボタンでパラメーターを選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更できます。

メニュー [Shift] + Cursor [◀] [▶]	パラメーター Cursor [◀] [▶]	設定値 Value [-] [+]
INPUT	Level (入力レベル)	-20 ~ +40dB (MIC、INPUT の入力レベル)
	Mic Sel (マイクの選択)	Attached (付属のマイク使用時)、Other (市販のダイナミック・マイク使用時)
	NS SW	OFF、ON (ノイズ・サプレッサーのオン/オフ) (無音時のノイズを抑える)
	NS Threshold	0 ~ 127 (ノイズを抑え始める音量)
	NS Release	0 ~ 127 (ノイズを抑え始めてから、音量が 0 になるまでの時間)

### 4. 設定が終わったら、[Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

設定項目は自動で保存されます。

### ボコーダー／オート・ピッチ

「ボコーダー」は、人の声にけるエフェクトのことです。人の声をボコーダーに通すと、抑揚のないロボットのような音声に変化させることができます。ピッチは鍵盤を弾いてコントロールします。

オート・ピッチの音色は、音程のふらつきを抑え、補正された音になります。音程変化を階段状にして、機械的な効果を作り出すことができます。

1. カテゴリ・ダイヤルで「Vocoder/AutoPitch」を選びます。
2. Tone [-] [+] ボタンでトーンを選びます。
3. 鍵盤を弾きながら、マイクに向かって声を出します。  
AutoPitch のトーンを選んだときは、鍵盤を弾く必要はありません。

### 設定する

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで「Vocoder Edit」または「AutoPitch Edit」を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. Cursor [◀] [▶] ボタンでパラメーターを選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更できます。  
→ パラメーターについて詳しくは、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

### 4. 設定が終わったら、[Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

ボコーダー／オート・ピッチ設定は、プログラムごとに保存します。  
→ 「音色 (プログラム) を保存する (WRITE)」(P.9)

### ボコーダー／オート・ピッチの注意点

- ・ ボコーダー／オート・ピッチは Digital Synth の 1 つのパートでのみ使用可能です。
- ・ ボコーダー／オート・ピッチを選んでいるときは、Analog Synth パートの音は鳴らなくなります。
- ・ 音声以外の音を入力したり、雑音の多い環境で使用したりすると、正しい効果が得られない場合があります。

### オート・ノート

オート・ノートは、声から音程を検出して演奏する機能です。声を入力することで、鍵盤を演奏するように音を鳴らすことができます。

1. [Auto Note] ボタンを押して、ボタンを点灯します。
2. マイクから声を入れると、鍵盤を弾かなくても音が鳴ります。

### メモ

オート・ノートを使って、パターンを録音する場合、Pitch Bend Range が 24 に固定されます。オート・ノートを OFF にして、パターンを再生させると、録音時と異なるピッチ変化になることがあります。オート・ノートで録音したパターンを、録音時の状態で再生させる場合は、Pitch Bend Range を 24 に変更してください。

→ パラメーターについて詳しくは、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

## マイクの代わりに外部機器を使う

リア・パネルの INPUT (MONO) 端子にギターやオーディオ・プレーヤーをつなぐと、マイクと同じようにボコーダーやオート・ノートの機能を使うことができます。

1. リア・パネルの INPUT 端子に機器を接続します。  
リア・パネルの INPUT (MONO) 端子に機器が接続されているときは、トップ・パネルのマイク入力は無効になります。
2. 接続した機器に合わせて、LINE/GUITAR 切り替えスイッチを設定します。  
ギターを接続したときは GUITAR 側、キーボードやオーディオ・プレーヤーを接続したときは LINE 側へ動かします。
3. 「マイクを使う」の手順 2 ~ 5 と同じ操作で入力レベルなどを調節します。

### ご注意!

- ・ ボコーダー／オート・ピッチやオート・ノートの機能は、音声入力に最適化されています。ギターやオーディオ・プレーヤーの音を入力すると意図しない音が鳴ることがあります。
- ・ 音声以外の音を入力したり、雑音の多い環境で使用したりすると、正しい効果が得られない場合があります。

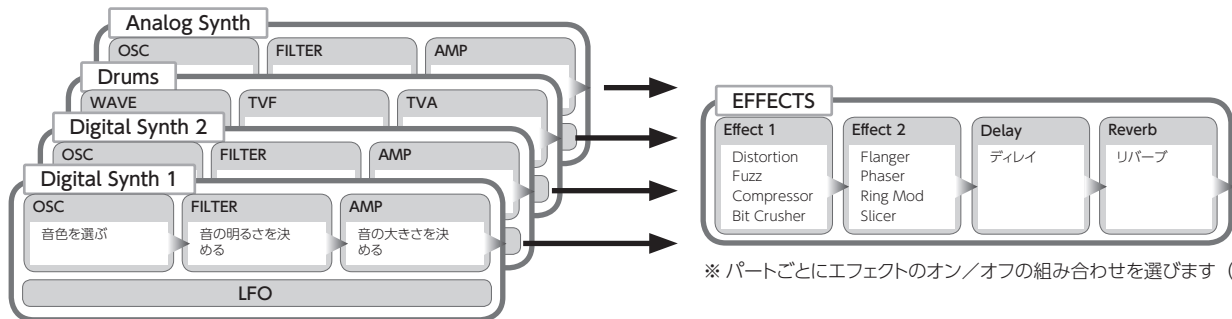
### パラメーター・ガイド (PDF) の入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。  
<http://www.roland.co.jp/manuals/>
2. 製品名「JD-Xi」を選んでください。

# 音色をエディットする

## プログラムの音の流れ

プログラムは4つのパートで構成されています。各パートの音はエフェクト部へ送られます。エフェクト部の設定はプログラムで1つですが、パートごとにエフェクトのオン/オフを選ぶことができます。



※ パートごとにエフェクトのオン/オフの組み合わせを選びます (P.9)。

## 音の明るさや太さを決める (FILTER)

フィルターは、音の鳴りかたや特徴を決めているパラメーターの1つです。

### [Cutoff] つまみ (Cutoff インジケーター)

フィルターのカットオフ周波数を決めます。点灯しているインジケーターのフィルターが選ばれています。

### [Type] ボタン

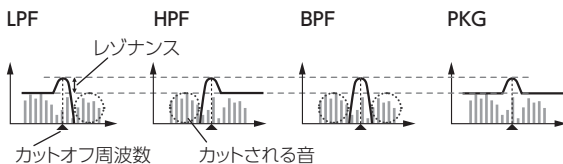
フィルターのタイプを切り替えます (Analog Synth は LPF のみ)。

### [Resonance] つまみ

フィルターのカットオフ周波数付近を強調します。

### Digital Synth / Drums パート

Digital LPF (Low Pass Filter)、HPF (High Pass Filter)、BPF (Band Pass Filter)、PKG (Peaking Filter) が使えます。Analog LPF は使えません。フィルターの傾き (スロープ) を変えることができます。→ 詳細は「パラメーター・ガイド」(PDF) をご覧ください。



### Analog Synth パート

Analog LPF のみ使えます。



※ Analog LPF はアナログ回路なので、温度や電源の状態によって音が変わることがあります。

## 音の鳴りかたを決める (AMP / ENV)

アンプは、音量をコントロールするパラメーターです。エンベロープ (Envelope) とは、楽器の音が鳴り始めてから消えるまでの、音量の変化を描いた線のことです。鍵盤では、鍵を押してから離すまでの音量の変化になります。

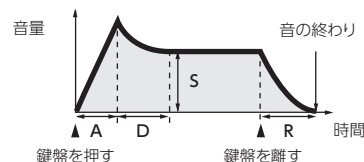
### [Level] つまみ

音量を決めます。

### [Envelope] つまみ

つまみを左に回すとアタックが強く短い音になり、右に回すとアタックが弱くリリースの長い音になります。

### エンベロープ



- A: アタック・タイム キーを押してから、音が立ち上がるまでの時間
- D: デキエイ・タイム 音が立ち上がってからサステイン・レベルに到達するまでの時間
- S: サステイン・タイム キーを押している間、持続する音量
- R: リリース・タイム キーを離してから、音が消えるまでの時間

[Envelope] つまみは1回の操作で効果的にA/D/S/Rのパラメーターが変化するように設定されています。Drums パートはインスト (鍵盤) ごとに設定できます。A/D/S/Rを個別に変更したいときは、「Tone Edit」に入って設定してください ([Menu/Write] ボタン → 「Tone Edit」を選択)。  
→ 詳細は「パラメーター・ガイド」(PDF) をご覧ください。

### パラメーター・ガイド (PDF) の入手方法

1. パソコンなどで下記の URL を入力します。  
<http://www.roland.co.jp/manuals/>
2. 製品名「JD-Xi」を選んでください。



## 音をうねらせる (LFO)

LFOとはLow Frequency Oscillator (ロー・フリケンシー・オシレーター) の略で、非常に遅い周期の低周波発振器のことです。正弦波、三角波、矩形波、のこぎり波などなどの波形を出力することができます。他の音声信号などをLFOで変調することによって、ビブラート、トレモロなどの効果を加えることができます。



### 波形選択つまみ

LFOの波形を選びます。点灯しているインジケータの波形が選ばれています。  
 ~ (三角波)、~ (サイン波)、M (のこぎり波)、□ (矩形波)、⌂ (サンプル&ホールド波)、RND (ランダム波)

### [Rate] つまみ

LFOのうねりの速さを決めます。

### [Depth] つまみ

LFOのかかり具合を決めます。

### [Destination] ボタン

LFOをかける対象を選びます。点灯しているインジケータが対象に選ばれています。

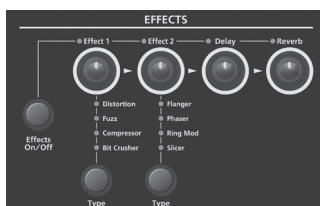
Destination	説明
Pitch	ピッチに対して作用させると、ビブラート効果がかかります。
Filter	フィルターに対して作用させると、ワウ効果がかかります。
Amp	アンプに対して作用させると、トレモロ効果がかかります。

### ご注意!

Drums パートにはLFOの効果はかかりません。

## 音に迫力や広がりをつける (EFFECTS)

音に残響を加えて奥行きを表現したり、音を遅らせて特殊な効果を得たりするなど、「音を加工・演出する効果」のことをエフェクトといいます。



### [Effects ON/OFF] ボタン

パートごとに使用するエフェクトを設定できます。[Effects ON/OFF] ボタンを押すたびに組み合わせが変わります。使用できるエフェクトはつまみ左上のインジケータが点灯します。音声は「Effect1」→「Effect2」→「Delay」→「Reverb」の順で通り、オンになっているエフェクトのみ効果がかかります。



→ 各エフェクトのパラメーターやルーティング図の詳細は、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

### [Effect 1 / 2] つまみ

エフェクトのかかり具合を設定します。

### Effect 1 / 2 [Type] ボタン

エフェクトのタイプを選びます。

Effect 1	Distortion、Fuzz、Compressor、Bit Crusher
Effect 2	Flanger、Phaser、Ring Mod、Slicer

### [Delay] つまみ

ディレイのかかり具合を設定します。

### [Reverb] つまみ

リバーブのかかり具合を設定します。

エフェクト設定はプログラムとして保存できます。

→ 「音色 (プログラム) を保存する (WRITE)」 (P.9)

## プログラムやエフェクトの設定をする

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで「Program Edit」、「Tone Edit」、「Effects Edit」を選び、[Enter] ボタンを押します。  
各項目の設定画面が表示されます。
3. Cursor [◀] [▶] ボタンで設定したいパラメーターを選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更します。  
→ パラメーターについて詳しくは、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。
4. 設定が終わったら、[Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

## 音色 (プログラム) を保存する (WRITE)

作った音は、つまみを動かしたり、別のトーンやプログラムを選んだりすると変わってしまいます。また、JD-Xiの電源を切ると消えてしまいます。気に入った音ができあがったら、プログラムとして保存しましょう。

1. [Shift] ボタンを押しながら [Menu/Write] ボタンを押します。  
名前入力画面が表示されます。

Name: [Ent]  
Init Program

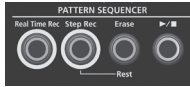
2. Cursor [◀] [▶] ボタンでカーソルを移動し、Value [-] [+] ボタンで文字を変更します。
3. 名前が設定が終わったら [Enter] ボタンを押します。
4. Program (Pattern) Value [-] [+] ボタンで保存先を選びます。  
※ すでにデータの保存されている番号を指定した場合は、下段にプログラム名が表示されます。この番号に保存するとプログラムは上書きされ、以前のデータは消去されます。
5. [Enter] ボタンを押します。  
確認画面が表示されます。
6. [Enter] ボタンを押します。

Complete! という画面が出て保存されます。  
キャンセルする場合は、[Exit] ボタンを押します。  
※ 保存中は、絶対に電源を切らないでください。

# パターンの再生と録音をする

## パターン・シーケンサーの基本操作

鍵盤の演奏やつまみの操作を記録し、くり返し再生することができます。  
録音するときは、Part Select で選んでいるパートが録音されます。



### [Real Time Rec] ボタン

鍵盤の演奏をリアルタイムに録音して、パターンを作成します。

### [Step Rec] ボタン

鍵盤の演奏をステップごとに順番に録音してパターンを作成します。

### [Erase] ボタン

録音したパターンやパターンの一部を消去します。

### [▶/■] ボタン

パターンを再生、停止します。

### 小節数を変える

パターンは最大 4 小節まで作成できます。  
以下の方法で変更できます。

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [Pattern Length] を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. Value [-] [+] ボタンで小節数を選び、[Enter] ボタンを押します。  
画面に [With Copying ?] と表示されます。

```
With Copying ?
[Exit]:N [Ent]:Y
```

ボタン	説明
[Enter] ボタン	小節数を増やす場合、元のパターンをコピーして増やします。
[Exit] ボタン	空の小節を増やします。

※ 小節数を変更してもプログラムを保存しないと、別のプログラムを選んだときに小節数は元に戻ります。

4. [Enter] または [Exit] ボタンを押して、小節数を変更します。

### 再生/録音時に [01] ~ [16] ボタンで表示する小節を切り替える

1. [Shift] ボタンを押しながら、[01] ~ [04] ボタン (スケール設定が 32 分音符の場合は [01] ~ [08] ボタン) を押します。  
ボタンの数字は、小節を表します (32 分音符設定の場合は半小節)。16 分音符の 4 小節設定の場合、[Shift] ボタンを押すと [01] ~ [04] ボタンが点灯し、現在の小節は点滅します。  
32 分音符の 4 小節設定の場合、[Shift] ボタンを押すと [01] ~ [08] ボタンが点灯し、半小節単位で移動できます。

### スケールを変更する

1 ステップの音の長さを変更できます。

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [Scale Setting] を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. Value [-] [+] ボタンで 8 分 3 連符 (♩<sub>3</sub>)、16 分音符 (♩<sub>2</sub>)、32 分音符 (♩<sub>4</sub>) から選びます。
4. [Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

### パターンを一括消去する

1. [Shift] ボタンを押しながら、[Erase] ボタンを押します。  
Pattern Erase 画面が表示されます。

```
<Pattern Erase>
Digital1
```

2. Value [-] [+] ボタンで消去する対象のパート (Digital 1, Digital 2, Drum, Analog, SysEx, All) を選び、[Enter] ボタンを押します。

※ [All] を選ぶと、すべてのパートのパターンを消去します。  
※ SysEX (システム・エクスクルーシブ) とは、TX Edit Data を ON に設定した場合に、録音される MIDI メッセージです。

### 特定ステップの音を完全に消す

[01] ~ [16] のボタンに音が入っている場合、音の入っているボタンを OFF (ボタンを消灯) にすれば、音が鳴りません。この状態は、音が消されているのではなく Mute されている状態なので、もう一度 ON (ボタンを点灯) にすると、入っている音が鳴ります。

1. 完全にステップの音を消したい場合は、パターンが止まっている状態で [Erase] ボタンを押しながら、消したいステップのボタンを押します。

### パターンをコピーする

別のプログラムからパターンをコピーします。

1. [Menu/Write] ボタンを押しながら、[10] ボタンを押します。  
Pattern Copy 画面が表示されます。

```
<Pattern Copy>
Program A01
```

2. Value [-] [+] ボタンでコピー元のプログラム番号を選んで [Enter] ボタンを押します。
3. Value [-] [+] ボタンでコピー元のパート、コピー先のパートを選んで [Enter] ボタンを押します。

```
<Pattern Copy>
D1 -> D1
```

画面表示	コピー元	コピー先
D1->D1	Digital Synth 1 パート	Digital Synth 1 パート
D1->D2	Digital Synth 1 パート	Digital Synth 2 パート
D2->D1	Digital Synth 2 パート	Digital Synth 1 パート
D2->D2	Digital Synth 2 パート	Digital Synth 2 パート
Drum	Drums パート	Drums パート
Analog	Analog パート	Analog パート
All	全パート	全パート

※ パターン・データとトーンがコピーされます。プログラムやエフェクト設定はコピーされません。

4. Value [-] [+] ボタンでコピー対象を選び、[Enter] ボタンを押します。

```
<Pattern Copy>
Pattern+Sound
```

Value Value [-] [+]	説明
Pattern+Sound	パターンと音色をコピーします。
Sound Only	音色だけをコピーします。
Pattern Only	パターンだけをコピーします。

### メモ

JD-Xi は、トーン単位で音を保存することができません。別のプログラムのトーンを使いたいときは、Pattern コピーの Sound Only 設定でコピーしてください (エフェクトのコピーはできません)。

## 特定のパートの音をミュートする (パート・ミュート)

パターン再生中に一部のパートをミュートとしたいときに便利です。

1. [Shift] ボタンを押しながら Part Select ボタンを押します。  
選んだパートがミュートされます。複数のパートを選ぶこともできます。  
元に戻す場合は、もう一度 [Shift] ボタンを押しながら Part Select ボタンを押します。

## TR-REC

### [01] ~ [16] ボタン



ステップごとに、楽器（インスト）を鳴らすか鳴らさないかを指定します。

- Part Select ボタンで録音するパートを選びます。**  
Drums パートを選んだときは鍵盤を弾いて録音するインストを選びます。Drums パートを選んだときは鍵盤に割り当てられたインスト（キックやスネアの音など）ごとに録音できます。
- [01] ~ [16] ボタンを押して、音を鳴らしたいステップを点灯させます。**  
音を消したい場合は、[01] ~ [16] ボタンを押して消灯させます。
- [▶/■] ボタンを押してパターンを再生します。**  
再生中も [01] ~ [16] ボタンのオン/オフを変更できます。気に入ったパターンができあがったら、プログラムとして保存しましょう。  
→「音色（プログラム）を保存する（WRITE）」（P.9）

### Digital Synth パート、Analog Synth パート

Digital Synth パート、Analog Synth パートについても、Drum パート同様、TR-RECが可能です。

- TR-REC したい鍵盤を弾きます。**
- [01] ~ [16] ボタンを押して、音を鳴らしたいステップを点灯させます。**
- [▶/■] ボタンを押してパターンを再生します。**
  - 鍵盤で和音を弾きながら [01] ~ [16] のボタンを押すと、和音の入力ができます。
  - 音の長さ（Gate Time）は、80% に固定されています。鍵盤の強弱（Velocity）は、入力時の値によって変わります。
  - 1度、音を入力したステップ、またプリセットパターンの音が入っているステップに、TR-REC で音を入れ直す場合、先にもとも入っている音を消す必要があります。パターンの再生がストップしている状態で [Erase] ボタンを押しながら、消したいステップ番号のボタンを押します。ステップ録音、リアルタイム録音の場合は、自動で元の音を消して、音が入力（上書き）されます。

### メトロノームの設定をする

- [Menu/Write] ボタンを押します。**
- [SYSTEM] を選び、[Enter] ボタンを押します。**
- Click パラメーター（P.13）を選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更します。**

## TR-REC とは

TR-REC は [01] ~ [16] ボタンを使って、楽器（インスト）ごとに音を鳴らすタイミングをセットしていく方法です。フレーズの再生中/停止中は、いつでも TR-REC できる状態になっています。自分でセットしたリズムを聴きながら操作できます。たとえば、図 1 のようなドラム・パターンは、図 2 のようにセットします。

図 1



図 2

Step Number	01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16
Closed Hi-Hat	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
Snare Drum	□	□	□	□	□	□	■	□	□	□	□	□	□	□	□	□
Bass Drum	■	□	□	□	□	□	■	■	□	□	□	□	□	□	□	□

■ ボタン点灯  
□ ボタン消灯

ドラム・パートの場合、鍵盤で楽器（インスト）を鳴らすと [01] ~ [16] ボタンが点灯/消灯して、どのステップで発音するのかが確認することができます。

[01] ~ [16] ボタンを押すと点灯/消灯が切り替わり、楽器（インスト）の発音設定を変更することができます。

- [Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。**

変更したパラメーターは、システム設定の画面を抜けるときに保存されます。

### フレーズやドラム・パターンを一部分だけ消去する

再生中/録音中に [Erase] ボタンを押すと、押している間だけ、選ばれているパート（Drums パートの場合は最後に押さえた鍵盤のインスト）が、パターンから消去されます。

### リアルタイム録音のコツ

パターン再生中にリアルタイム録音する場合、パターンの終わり（再生がパターンの頭に戻るタイミング）で、自動的にリアルタイム録音状態が解除されます。ループ再生しながら、リアルタイム録音を繰り返したい場合は、SYSTEM の中にある、[Loop Rec] パラメーターを ON にしてください。

### エフェクトつまみの動きを録音する場合のご注意

Effect1、Effect2、Delay、Reverb つまみの動きを、リアルタイム録音で記録することができます。ただし、エフェクトつまみの動きは Program 全体で保存されるため、パターンの一括消去をしても、エフェクトつまみの動きは消去されません。  
※ 録音したエフェクトつまみの動きは消去できないので、録音し直してください。

## リアルタイム録音

鍵盤の演奏をリアルタイムに録音して、パターンを作成します。選んでいるパターンに重ねて録音します。

- Part Select ボタンで録音するパートを選びます。**
- [Real Time Rec] ボタンを押します。**
- [▶/■] ボタンを押して、録音を開始します。**  
再生中に、[Real Time Rec] ボタンを押して、録音を始めることもできます。
- 鍵盤を演奏します。**  
Drums パートを選んでいるときは、鍵盤上部に書かれている音色（インスト）が鳴ります。和音を録音することもできます。つまみやホイールの操作も記録されます。
- [Real Time Rec] ボタンを押して録音を終了します。**

## ステップ録音

鍵盤の演奏をステップごとに順番に録音してパターンを作成します。選んでいるパターンに重ねて録音します。

### [01] ~ [16] ボタン

録音中のステップに対応したボタンが点滅します。

1. Part Select ボタンで録音するパートを選びます。
2. [Step Rec] ボタンを押します。

[01] ボタンが点滅します。  
録音を停止するまで以下の画面が表示されます。



Cursor [◀] [▶] ボタンでパラメーターを選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更できます。

パラメーター	設定値
Cursor [◀] [▶]	Value [-] [+]
Velocity (鍵盤の強弱)	Real (実際に演奏している強さ)、1 ~ 127 (一定の強さに固定)
Gate Time (音の長さ)	5 ~ 100%

3. 鍵盤を 1 回弾きます。

ステップ 1 に演奏が記録され、自動的にステップ 2 に進み [02] ボタンが点滅します。  
複数の音を選ぶと、和音の録音ができます。

4. 手順 3 の操作をくり返し、ステップごとに録音します。

#### メモ

- ステップのデータを消したい (または休符を入れたい) ときは、[Erase] ボタンを押します。
- タイを入れたいときは、ARPEGGIO [Key Hold] ボタンを押します。
- 録音するステップを変更したいときは、[01] ~ [16] ボタンを押します。
- 小節を変更するときは、[Shift] ボタンを押しながら [01] ~ [04] ボタンを押します (スケール設定が 32 分音符の場合は [01] ~ [08])。
  - ➔ 小節数を変更したいときは、「小節数を変える」(P.10) をご覧ください。

5. [Step Rec] ボタンを押して録音を終了します。

## TR-REC、ステップ録音、リアルタイム録音以外の録音方法

以下の方法を使って、録音することもできます。

1. 音を入力したいステップボタン ([01] ~ [16] のボタン) を押し続けます。
2. ステップボタンを押している間に、鍵盤を弾きます。
3. ステップボタンから手を離します。

4. [▶/■] ボタンを押してパターンを再生します。

- この録音方法ではもともと入っている音を消さずに、入力した音を追加しながら録音します。
- 音の長さ (Gate Time) は、80% に固定されています。鍵盤の強弱 (Velocity) は、入力時の値によって変わります。

### パターンを保存する

作成したパターンは、別のプログラムを選んだり、JD-Xi の電源を切ったりすると消えてしまいます。気に入ったパターンができあがったら、プログラムとして保存しましょう。

- ➔ 「音色 (プログラム) を保存する (WRITE)」(P.9)



## システム設定をする (SYSTEM)

JD-Xi 本体の設定をします。

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [SYSTEM] を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. [Shift] ボタンを押しながら Cursor [◀] [▶] ボタンを押して設定するメニューを選びます。
4. Cursor [◀] [▶] ボタンで設定したいパラメーターを選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更します。
5. [Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。  
変更したパラメーターは、システム設定の画面を抜けるときに保存されます。

GENERAL  
LCD Contrast 10

メニュー [Shift] + Cursor [◀] [▶]	パラメーター Cursor [◀] [▶]	設定値 Value [-] [+]	説明
GENERAL	LCD Contrast	1 ~ 10	ディスプレイの文字表示の濃さを調節します。
	Illumination	ON, OFF	操作待機時のボタンの光りかたを変更します。
	Tempo Lock	OFF ON	プログラムを再生しながら切り替えた場合に、切り替え後のプログラムのテンポに更新します。 プログラムを再生しながら切り替えた場合に、切り替え前のプログラムのテンポを維持します。
	Loop Rec	OFF ON	リアルタイム録音をする場合、録音し始めてから、パターンが一度最終ステップまでいくと、録音状態を解除します。 リアルタイム録音を止める (もう一度 [Real Time Rec] ボタンを押す) まで、録音し続けます。
KEY TOUCH	Velo Curv (Velocity Curve)	LIGHT	鍵盤のタッチ感を軽めの設定にします。MEDIUM より弱いタッチでフォルティッシモ (ff) が出せるので、鍵盤が軽くなったように感じられます。力の弱いかたでも、演奏しやすい設定です。
		MEDIUM	鍵盤のタッチ感を標準設定にします。
		HEAVY	鍵盤のタッチ感を重めの設定にします。MEDIUM より強いタッチで弾かないとフォルティッシモ (ff) が出せなくなるので、鍵盤が重くなったように感じられます。ダイナミックに弾くとき、さらに感情がこめられます。
	Curve Offset (Velocity Curve Offset)	-10 ~ +9	キーボード・ベロシティ・カーブを調節します。 値を小さくするほど、タッチ感がより軽くなります。 値を大きくするほど、タッチ感がより重くなります。
Velocity	REAL 1 ~ 127	鍵盤を弾いたときに送信されるベロシティの値を設定します。 キーを押さえる強さに応じたベロシティを送信します。 キーを押さえる強さに関係なく、常に一定のベロシティを送信します。	
SOUND	Master Tune	415.3 ~ 466.2 [Hz]	JD-Xi 全体のチューニング (A4 キーの周波数) を設定します。
	Output Gain	-12 ~ +12 [dB]	JD-Xi の出力ゲインを調節します。 発音ボイス数が少ない場合などに値を大きくすると、外部機器への録音時などに最適な出力レベルを得られます。
CLICK	Mode	OFF	クリック音の鳴りかたを設定します。
		PLAY-ONLY	鳴りません。
		REC-ONLY	パターンを再生するときに鳴ります。
		PLAY&REC	パターンを録音するときに鳴ります。
		ALWAYS	パターンを再生または録音するときに鳴ります。 常に鳴ります。
Level	0 ~ 10	クリックの音量を調節します。	
Sound	TYPE1	通常のメトロノーム音 (1 拍目はベル音)	
	TYPE2	クリック音	
	TYPE3	ピープ音	
	TYPE4	カウベル音	
Accent SW	OFF, ON	クリック音にアクセントが付きます。	
INPUT	Level	-20 ~ +40dB	MIC、INPUT (MONO) 端子の入力レベルを調整します。
	Mic Sel (Microphone Select)	Attached Other	MIC 端子に接続するマイクを選びます。 付属マイクを使用する場合 市販のマイク (ダイナミック・マイクのみ) を使用する場合
	NS SW (Noise suppressor SW)	OFF, ON	ノイズ・サプレッサーのオン、オフを設定します。 ノイズ・サプレッサーは無音時のノイズを抑える機能です。
	NS Threshold (Noise suppressor Threshold)	0 ~ 127	ノイズを抑え始める音量を調整します。
	NS Release (Noise suppressor Release)	0 ~ 127	ノイズを抑え始めてから、音量が 0 になるまでの時間を調節します。
MIDI	Local Switch	OFF, ON	コントローラー部 (鍵盤、ピッチ・ベンド/モジュレーション・ホイール、パネル上のボタンやつまみなど) と内部音源の接続をオン/オフします。 通常は [ON] にしておきます。JD-Xi の操作でパソコン上の DAW だけをコントロールしたいときは [OFF] にします。
	Prog Rx/Tx Ch	1 ~ 16, OFF	プログラムの MIDI メッセージの送受信チャンネルを設定します。
	Tx Edit Data	OFF, ON	プログラムの設定変更をシステム・エクスクルーシブ・メッセージとして送信する/しないを切り替えます。
	Soft Through	OFF, ON	ON にすると、MIDI IN 端子から入力された MIDI メッセージを MIDI OUT 端子へそのまま出力します。
	Sync Mode	MASTER	JD-Xi が、どの同期信号にしたがって動作するかを設定します。 JD-Xi がマスターになります。JD-Xi を単体で使う場合や、他の機器を JD-Xi に同期させるときに使います。
		SLAVE	JD-Xi がスレーブになります。外部機器の MIDI クロックを受信して、JD-Xi が動作する場合に設定します。
	USB Drv (USB Driver)	GENERIC, VENDOR	USB ドライバーの設定をします (P.15)。 この設定は、変更してから本体の電源を入れ直す有効になります。
ClockSource	MIDI, USB	Sync Mode が [SLAVE] のときに、MIDI IN 端子からの同期メッセージに同期するか (MIDI)、USB 端子からの同期メッセージに同期するか (USB) を設定します。	

## Menu 画面を表示する

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで実行したい項目を選び、[Enter] ボタンを押します。  
各項目の設定画面が表示されます。
3. Cursor [◀] [▶] ボタンで設定したいパラメーターを選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更します。
4. 設定が終わったら、[Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

### メニュー項目

#### SYSTEM (P.13)

JD-Xi 全体の動作環境に関する設定をします。

#### Program Edit

プログラム・エディット画面を表示します。

#### Tone Edit

トーン・エディット画面を表示します。

#### Effects Edit

エフェクト・エディット画面を表示します。

#### Vocoder Edit

ボコーダー・エディット画面を表示します。

#### AutoPitch Edit

オートピッチ・エディット画面を表示します。

→ パラメーターについて詳しくは、『パラメーター・ガイド』(PDF) をご覧ください。

#### Arpeggio Edit

アルペジオ・エディット画面を表示します。

#### Pattern Length

パターンの長さを設定する画面を表示します。

#### Scale Setting

パターン・シーケンサーで、1 ステップあたりの音の長さを設定する画面を表示します。

#### UTILITY (P.14)

便利な機能を実行します。

#### VERSION INFO


JD-Xi のシステム・プログラムのバージョンを表示します。

## データのバックアップと復元をする

JD-Xi のデータをお使いのパソコンにバックアップすることができます。また、パソコンにバックアップしたデータを復元することができます。

※ バックアップやリストアを実行する前に JD-Xi をパソコンに USB 接続してください。

### データをバックアップする (Backup)

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
  2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [UTILITY] を選び、[Enter] ボタンを押します。
- 
3. Cursor [◀] [▶] ボタンで [Backup] を選び、[Enter] ボタンを押します。
  4. パソコン画面にフォルダーが開き、バックアップするファイルが表示されます。  
表示されたファイルのファイル名は変更しないでください。
  5. 表示されたファイルをパソコンにコピーします。

### メモ

パソコンと USB ケーブルで接続しバックアップを実行すると、パソコン画面にフォルダーが開き、「JD-Xi」フォルダーが見えます。この「JD-Xi」フォルダーごとパソコンにコピーしてください。

また、リストアを実行するときも、「JD-Xi」フォルダーごとコピーしてください。「JD-Xi」フォルダーの下にある、「BACKUP」フォルダーや一部のファイルのみをコピーしても正しくバックアップやリストアを実行することができません。

6. パソコンの操作で JD-Xi の接続を解除 (アンマウント) します。  
JD-Xi の画面は通常画面に戻ります。

### メモ

データのバックアップやリストアをするとき、パソコン側で JD-Xi の接続を解除 (アンマウント) しても、バックアップやリストアが進まないことがあります。その場合は、パソコン側で接続を解除したあと、JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。

Mac をお使いの場合は、接続を解除したあと、必ず最後に JD-Xi の [Exit] ボタンを押してください。

### データを復元する (Restore)

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [UTILITY] を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. Cursor [◀] [▶] ボタンで [Restore] を選び、[Enter] ボタンを押します。
4. パソコン画面にフォルダーが開きます。
5. 表示されたフォルダーに、パソコンにバックアップしたファイルをコピーします。
6. パソコンの操作で JD-Xi の接続を解除 (アンマウント) します。  
接続が解除されるとリストアが始まります。  
終了すると、「Completed. Turn off power」と表示されます。



7. JD-Xi の電源を入れ直します。

### バックアップ・モード時のご注意

バックアップ・モードに入ると、USB MIDI、USB オーディオ機能が一時的に停止します。この間はパソコンの入出力デバイスとして JD-Xi をお使いになれません。

バックアップ・モードを抜けると USB MIDI、USB オーディオ機能が復帰して使えるようになります。

お使いのソフトウェアによっては、入出力デバイスの再設定が必要な場合がありますのでご注意ください。

## 工場出荷時の設定に戻す (ファクトリー・リセット)

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [UTILITY] を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. Cursor [◀] [▶] ボタンで [Factory Reset] を選び、[Enter] ボタンを押します。  
確認画面が表示されます。



中止するときは、[Exit] ボタンを押します。

4. [Enter] ボタンを押して、実行します。
5. JD-Xi の電源を入れ直します。

### ファクトリー・リセットで初期化される項目

- すべてのユーザー・プログラム (アルペジオ、パターン、エフェクトを含む)
- システム設定

## 市販のマイクを使うための設定をする

JD-Xi は付属のマイクを使うときと、市販のマイク（ダイナミックマイクのみ対応）を使うときで設定が異なります。

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [SYSTEM] を選び、[Enter] ボタンを押します。
3. [Mic Sel] を選び、Value [-] [+] ボタンで [Other] を選びます。



メニュー [Shift] + Cursor [◀] [▶]	パラメーター Cursor [◀] [▶]	設定値 Value [-] [+]
INPUT	Mic Sel (マイクの選択)	Attached (付属のマイク使用時) Other (市販のマイク使用時)

### ご注意!

[Attached] に設定すると、MIC 端子からは 5V の電圧が供給されます。

市販のマイクを [Attached] 設定で使うとマイクを破損する恐れがあります。必ず [Other] 設定でお使いください。

4. 設定が終わったら、[Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。

## クリック・アウトを右側だけに出力する

メトロノームなどのクリック音だけを出力することができます。

1. [Menu/Write] ボタンを押しながら、[16] ボタンを押します。  
OUTPUT とヘッドホンの右側からクリック音を出力されます。  
左側からは、楽器音 (L ch と R ch がミックスされた音) が出力されます。  
元に戻す場合は、もう一度 [Menu/Write] ボタンを押しながら [16] ボタンを押します。  
※ この設定は一時的なもので、保存することはできません。

### クリックの音色や音量を変える

システム設定の [CLICK] メニュー内 [Sound] や [Level] パラメーターを変更します。

→ システム設定について詳しくは、「システム設定をする (SYSTEM)」(P.13) をご覧ください。

### メモ

クリック・アウトを右側だけに出力する設定にした場合、OUTPUT L/MONO 端子だけにケーブルを接続すると、OUTPUT R 端子側のクリックの音がミックスされて出力されます。この場合は、OUTPUT R 側にもケーブルか、空プラグを挿せば、OUTPUT L 側からクリック音が出なくなります。

## 他の機器と同期や録音をする

JD-Xi は MIDI クロック (F8) を送受信して、テンポ同期することができます。また、MIDI スタート (FA)、MIDI ストップ (FC) を送受信して、スタート/ストップすることもできます。

MIDI の送受信チャンネルは、Digital Synth 1 パートが Ch1、Digital Synth 2 パートが Ch2、ドラムパートが Ch10、Analog Synth パートが Ch3 になっています。

また、つまみを回すとコントロール・チェンジ情報が送信されます。詳しくは『MIDI インプリメンテーション』(PDF) をご覧ください。

### 他の機器と同期する

市販の MIDI ケーブルで接続することで、他の機器と同期させることができます。

MIDI に関する設定は、「システム設定をする (SYSTEM)」(P.13) をご覧ください。

### USB でパソコンの DAW に同期/録音する

市販の USB2.0 ケーブルでパソコンに接続することで、USB MIDI でパソコンの DAW に同期したり、USB オーディオで JD-Xi の音を DAW に録音したりすることができます。

動作条件や対応 OS については、ローランドのホームページをご覧ください。

→ <http://www.roland.co.jp/support/>

### USB ドライバーを設定する

USB COMPUTER 端子を使ってパソコンと接続するときに、使用する USB ドライバーを設定します。

### メモ

この設定を変更するときは、USB ケーブルの接続をはずしてください。

### ドライバーのダウンロード

本製品を [VENDOR] 設定でお使いになるためには、パソコンで以下の URL からドライバーをダウンロードしてインストールする必要があります。

インストールについて詳しくは、以下の URL をご覧ください。

→ <http://www.roland.co.jp/support/>

### ご注意!

ドライバーのインストールが完了する前に、本機を [VENDOR] 設定でパソコンに接続しないでください。

すでに接続している場合は、本機をいったん取りはずしてください。ドライバーのインストールが完了してから、本機を接続してください。

1. [Menu/Write] ボタンを押します。
2. Cursor [◀] [▶] ボタンで [SYSTEM] を選び、[Enter] ボタンを押します。  
設定画面が表示されます。
3. [USB Drv] を選び、Value [-] [+] ボタンで値を変更します。

メニュー [Shift] + Cursor [◀] [▶]	パラメーター Cursor [◀] [▶]	設定値 Value [-] [+]
MIDI	USB Drv	VENDOR (ローランドのホームページからダウンロードした USB ドライバーをお使いのときに選びます。) GENERIC (パソコンに標準添付の USB ドライバーをお使いのときに選びます。)

4. [Exit] ボタンを何回か押してトップ画面に戻ります。  
変更したパラメーターは、システム設定の画面を抜けるときに保存されます。
5. JD-Xi の電源を入れ直します。  
[USB Drv] の設定を変更したら、正しく動作させるために必ず電源を入れ直してください。

# ショートカット一覧

「[A] + [B]」は、「[A] ボタンを押しながら、[B] ボタンを押す」という操作を表します。

ショートカット	説明
Value [-] + [+]	片方のボタンを押しながら、もう一方のボタンを押すと値が早く変わります。
[Shift]	ディスプレイの上段にプログラム名を表示します。
[Shift] + Value [-] [+]	プログラムのバンクが切り替わります。
[Shift] + [Menu]	WRITE 画面にジャンプします。
[Shift] + Part Select ボタン	選んだパートがミュートされます。複数のパートを選ぶこともできます。 元に戻す場合は、もう一度 [Shift] ボタンを押しながら Part Select ボタンを押します。
[Shift] + [Enter]	プログラム内で音色を切り替えたり、エディットしたあとで元の音に戻したりする場合に押します。
[Shift] + ARPEGGIO [ON]	Arpeggio Edit 画面にジャンプします。
[Shift] + [01] ~ [04] ボタン (スケール設定が 32 分音符の場合は [01] ~ [08] ボタン)	再生 / 録音時に、[01] ~ [16] ボタンに表示されるパターンの小節を切り替えます。 [Shift] を押している間、ボタンの数字 [01] ~ [04] は、小節を表します (32 分音符設定の場合は半小節)。 16 分音符の 4 小節設定の場合、[Shift] ボタンを押すと [01] ~ [04] ボタンが点灯し、現在の小節が点滅します。32 分音符の 4 小節設定の場合、[Shift] ボタンを押すと [01] ~ [08] ボタンが点灯し、半小節単位で移動できます。
Favorite モード時	
[Shift] + [01] ~ [16] ボタン	Favorite Bank を切り替えます。
[Shift] + [Erase]	Pattern Erase 画面にジャンプします。
[Shift] + CURSOR [◀]	
[Shift] + CURSOR [▶]	システムやエディットなどの設定画面で、大項目 (メニュー) を移動します。
[Menu/Write] 長押し	Portamento 設定画面にジャンプします。
[Menu/Write] + [10] ボタン	Pattern Copy 画面にジャンプします。
[Menu/Write] + [16] ボタン	OUTPUT とヘッドホンの右側からクリック音が出力されます。
名前入力時	
[Shift] + [◀] ボタン	カーソル位置の文字を削除します。
名前入力時	
[Shift] + [▶] ボタン	カーソル位置にスペース (空白) を挿入します。



思ったように動作しないときは、まず以下の点をチェックしてください。チェックしても原因がわからないときは、最寄りのお客様相談センター、またはお買い上げ店にお問い合わせください。

## 音に関する内容

トラブル	確認事項/対処
音が鳴らないのですが ...	鍵盤を押さえて音が鳴らない場合、ローカル・スイッチがオフに設定されていませんか？ Local Switch の設定でローカル・スイッチをオンにしてください。
特定の音域の音が出ないのですが ...	Drums パートはインスト（音色）が割り当てられていない高域は発音しません。 リア・パネルの LINE/GUITAR 切り替えスイッチの設定は合っていますか？
INPUT (MONO) 端子に接続した機器の音量が小さい。	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？ 抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。
鍵盤を押さえると音が鳴りっぱなしになるのですが ...	[Key Hold] ボタンがオンになっていませんか？ Key Hold がオンのときは演奏した鍵盤の音を鳴らし続けます。 [Key Hold] ボタンを押してオフにしてください。
音色（プログラム）を切り替えると音が消えてしまうのですが ...	JD-Xi は、さまざまなエフェクトをかけることができますが、音色（プログラム）を切り替えると、音色（プログラム）に設定されているエフェクトのタイプが切り替わります。 このときに発音している音とエフェクトのタイプの食い違いが起こり、意図しない音が出るのを防ぐため音を消しています。
同じ音色（トーン）なのにプログラムで聴くと音が違って聞こえるのですが ...	プログラムでは、音色（トーン）で設定されている音に対してさらにプログラムの各パートのパラメーターで、パンやオクターブの設定、フィルターのカットオフやエフェクトなどで音色を変化させることができます。そのため、トーンを呼び出して聴いたときと違う場合があります。
アルペジオが演奏できないのですが... パターンが再生されないのですが...	システム設定の「Sync Mode」(P.13) を「SLAVE」に設定していませんか？ 「Sync Mode」を「SLAVE」に設定しているときは、外部機器から MIDI クロックを受信してください。 外部機器に同期させるとき以外は、「Sync Mode」を「MASTER」にしてください。
Analog Synth の音が変わってしまうのですが ...	アナログ・シンセ・パートは、オシレーター、サブ・オシレーター、フィルター部分をアナログ回路で構成しているため、温度や電源の状態によって音が変わることがあります。

## マイクに関する内容

トラブル	確認事項/対処
マイクを挿しても音が出ないのですが ...	リア・パネルの INPUT 端子に機器を接続していませんか？ リア・パネルの INPUT 端子に接続している機器を取りはずしてください。
マイクがノイズを拾いやすいのですが ...	ノイズ・サプレッサーを使用することでノイズを軽減することができます。 システム設定の「INPUT」メニュー内「NS SW」「NS Threshold」「NS Release」パラメーターを変更します。 → システム設定について詳しくは、「システム設定をする (SYSTEM)」(P.13) をご覧ください。
マイクの音が出ない/小さいのですが ...	コンデンサー・マイクを接続していませんか？ JD-Xi はコンデンサー・マイクに対応していません。 SYSTEM 設定の INPUT メニュー内「Mic Sel」パラメーターの設定は合っていますか？ → システム設定について詳しくは、「システム設定をする (SYSTEM)」(P.13) をご覧ください。

## エフェクトに関する内容

トラブル	確認事項/対処
エフェクトがかからないのですが ...	次の点をパラメーター・ガイド PDF をご覧になりながら確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>エフェクト・スイッチがオフになっていませんか？各エフェクトのオン/オフを確認してください。</li> <li>エフェクトの各設定は正しいですか？</li> <li>各パートの Output Assign が、「Effect 1」「Effect 2」「Delay」「Reverb」になっていますか？</li> <li>各エフェクトへのセンド・レベルが 0 になっているとエフェクトはかかりません。各設定を確認してください。</li> <li>各エフェクトへのセンド・レベルが 0 以外に設定されていても、エフェクト・アウトプット・レベル、ディレイ・レベル、リバース・レベルが 0 になっているとエフェクトはかかりません。各設定を確認してください。</li> </ul>

## MIDI や外部機器に関する内容

トラブル	確認事項/対処															
エクスプローシブ・メッセージを受信しないのですが ...	送信側のデバイス ID ナンバーと、JD-Xi のデバイス ID ナンバーが合っていますか？ デバイス ID ナンバーは「17」固定です。															
外部シーケンサーや MIDI キーボードを MIDI IN 端子に接続したとき、JD-Xi の音が鳴らないのですが ...	外部 MIDI 機器の MIDI 送信チャンネルと JD-Xi の MIDI 受信チャンネルが一致しているかを確認してください。JD-Xi の MIDI メッセージの受信/送信チャンネルは、決まっているので変更できません。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>パート</th> <th>MIDI 受信チャンネル</th> <th>MIDI 送信チャンネル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Digital Synth 1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>Digital Synth 2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>Drums</td> <td>10</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>Analog Synth</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table> ドラム・キットの演奏情報は MIDI チャンネル 10 で送受信されることが一般的です。	パート	MIDI 受信チャンネル	MIDI 送信チャンネル	Digital Synth 1	1	1	Digital Synth 2	2	2	Drums	10	10	Analog Synth	3	3
パート	MIDI 受信チャンネル	MIDI 送信チャンネル														
Digital Synth 1	1	1														
Digital Synth 2	2	2														
Drums	10	10														
Analog Synth	3	3														

## 主な仕様

## Roland JD-Xi : シンセサイザー・キーボード

鍵盤	37 ミニ鍵盤 (ペロシティー対応)
電源	AC アダプター
消費電流	1000mA
外形寸法	575 (幅) × 245 (奥行) × 85 (高さ) mm
質量	2.2kg

付属品	取扱説明書、AC アダプター、マイク、保証書、ローランド ユーザー登録カード
-----	--

※ 製品の仕様や外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

# 安全上のご注意

## 警告

完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く

電源スイッチを切っても、本機は主電源から完全に遮断されてはいません。完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、本機にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。



## 警告

付属の AC アダプターを AC100V で使用する

AC アダプターは、必ず付属のものを、AC100V の電源で使用してください。



## 注意

接地端子の取り扱いに注意する

接地端子ネジは、お様が誤って飲み込んだりすることのないよう取りはずした状態で放置しないでください。再度ネジを取り付ける際は、ゆるんではずれないように確実に取り付けてください。



# 使用上のご注意

## 設置について

- 鍵盤の上にもものを置いたままにしないでください。発音しなくなるなど、故障の原因になります。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては、本機のゴム足が設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くと、安心してお使いいただけます。この場合、本機が滑って動いたりしないことを確認してからお使いください。

## お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、固く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。

## 修理について

- 修理を依頼されるときは、事前に記憶内容をバックアップするか、メモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- 当社では、本機の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間を過ぎたあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

## その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などによって失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップしておいてください。
- 失われた記憶内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。
- ディスプレイを強く押ししたり、叩いたりしないでください。

## 知的財産権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 第三者の著作権を侵害する恐れのある用途に、本製品を使用しないでください。お客様が本製品を用いて他者の著作権を侵害しても、当社は一切責任を負いません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイル・データ、伴奏パターン、フレーズ・データ、オーディオ・ループ、画像データなど）の著作権は当社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（ただしデモ曲などの楽曲データは除く）を素材として、お客様が新たな作品を制作、演奏、録音、配布をするに関しては、当社の許諾を必要としません。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピューター・ネットワークを通じて公開したりすることはできません。

- MMP (Moore Microprocessor Portfolio) はマイクロプロセッサのアーキテクチャーに関する TPL (Technology Properties Limited) 社の特許ポートフォリオです。当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。
- Roland, SuperNATURAL, Slicer は、日本国およびその他の国におけるローランド株式会社の登録商標または商標です。
- 文中記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。

## お問い合わせの窓口

### ● 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター **050-3101-2555**

電話受付時間： 月曜日～金曜日 10:00～17:00（弊社規定の休日を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ四回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

### ● 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ <https://www.roland.com/jp/>

ボス・ホームページ <https://www.boss.info/jp/>

**For EU Countries**



- UK** This symbol indicates that in EU countries, this product must be collected separately from household waste, as defined in each region. Products bearing this symbol must not be discarded together with household waste.
- DE** Dieses Symbol bedeutet, dass dieses Produkt in EU-Ländern getrennt vom Hausmüll gesammelt werden muss gemäß den regionalen Bestimmungen. Mit diesem Symbol gekennzeichnete Produkte dürfen nicht zusammen mit dem Hausmüll entsorgt werden.
- FR** Ce symbole indique que dans les pays de l'Union européenne, ce produit doit être collecté séparément des ordures ménagères selon les directives en vigueur dans chacun de ces pays. Les produits portant ce symbole ne doivent pas être mis au rebut avec les ordures ménagères.
- IT** Questo simbolo indica che nei paesi della Comunità europea questo prodotto deve essere smaltito separatamente dai normali rifiuti domestici, secondo la legislazione in vigore in ciascun paese. I prodotti che riportano questo simbolo non devono essere smaltiti insieme ai rifiuti domestici. Ai sensi dell'art. 13 del D.Lgs. 25 luglio 2005 n. 151.
- ES** Este símbolo indica que en los países de la Unión Europea este producto debe recogerse aparte de los residuos domésticos, tal como esté regulado en cada zona. Los productos con este símbolo no se deben depositar con los residuos domésticos.
- PT** Este símbolo indica que nos países da UE, a recolha deste produto deverá ser feita separadamente do lixo doméstico, de acordo com os regulamentos de cada região. Os produtos que apresentem este símbolo não deverão ser eliminados juntamente com o lixo doméstico.
- NL** Dit symbool geeft aan dat in landen van de EU dit product gescheiden van huishoudelijk afval moet worden aangeboden, zoals bepaald per gemeente of regio. Producten die van dit symbool zijn voorzien, mogen niet samen met huishoudelijk afval worden verwijderd.
- DK** Dette symbol angiver, at i EU-lande skal dette produkt opsamles adskilt fra husholdningsaffald, som defineret i hver enkelt region. Produkter med dette symbol må ikke smides ud sammen med husholdningsaffald.
- NO** Dette symbolet indikerer at produktet må behandles som spesialavfall i EU-land, iht. til retningslinjer for den enkelte regionen, og ikke kastes sammen med vanlig husholdningsavfall. Produkter som er merket med dette symbolet, må ikke kastes sammen med vanlig husholdningsavfall.

- SE** Symbolen anger att i EU-länder måste den här produkten kasseras separat från hushållsavfall, i enlighet med varje regions bestämmelser. Produkter med den här symbolen får inte kasseras tillsammans med hushållsavfall.
- FI** Tämä merkintä ilmaisee, että tuote on EU-maissa kerättävä erillään kotitalousjätteistä kunkin alueen voimassa olevien määräysten mukaisesti. Tällä merkinnällä varustettuja tuotteita ei saa hävittää kotitalousjätteiden mukana.
- HU** Ez a szimbólum azt jelenti, hogy az Európai Unióban ezt a terméket a háztartási hulladékotól elkülönítve, az adott régióban érvényes szabályozás szerint kell gyűjteni. Az ezzel a szimbólummal ellátott termékeket nem szabad a háztartási hulladék közé dobni.
- PL** Symbol oznacza, że zgodnie z regulacjami w odpowiednim regionie, w krajach UE produktu nie należy wyrzucać z odpadami domowymi. Produktów opatrzonych tym symbolem nie można utylizować razem z odpadami domowymi.
- CZ** Tento symbol udává, že v zemích EU musí být tento výrobek sbírány odděleně od domácího odpadu, jak je určeno pro každý region. Výrobky nesoucí tento symbol se nesmí vyhazovat spolu s domácím odpadem.
- SK** Tento symbol vyjadruje, že v krajinách EÚ sa musí zber tohto produktu vykonávať oddelene od domového odpadu, podľa nariadení platných v konkrétnej krajine. Produkty s týmto symbolom sa nesmú vyhazovať spolu s domovým odpadom.
- EE** See sümbol näitab, et EL-i maades tuleb see toode olempriigist eraldi koguda, nii nagu on igas piirkonnas määratletud. Selle sümboliga märgitud tooteid ei tohi ära visata koos olmeprügiga.
- LT** Šis simbolis rodo, kad ES šalyse šis produktas turi būti surenkamas atskirai nuo buitinių atliekų, kaip nustatyta kiekviename regione. Šiuo simboliu paženklinoti produktai neturi būti išmetami kartu su buitiniemis atliekomis.
- LV** Šis simbols norāda, ka ES valstīs šo produktu jāievāc atsevišķi no mājsaimniecības atkritumiem, kā noteikts katrā reģionā. Produkts ar šo simbolu nedrīkst izmest kopā ar mājsaimniecības atkritumiem.
- SI** Ta simbol označuje, da je treba proizvod v državah EU zbirati ločeno od gospodinskih odpadkov, tako kot je določeno v vsaki regiji. Proizvoda s tem znakom ni dovoljeno odlagati skupaj z gospodinskimi odpadki.
- GR** Το σύμβολο αυτό υποδηλώνει ότι στις χώρες της Ε.Ε. το συγκεκριμένο προϊόν πρέπει να συλλέγεται χωριστά από τα υπόλοιπα οικιακά απορρίμματα, σύμφωνα με όσα προβλέπονται σε κάθε περιοχή. Τα προϊόντα που φέρουν το συγκεκριμένο σύμβολο δεν πρέπει να απορρίπτονται μαζί με τα οικιακά απορρίμματα.

**For China**

**有关产品中所含有害物质的说明**

本资料就本公司产品中所含的特定有害物质及其安全性予以说明。  
本资料适用于2007年3月1日以后本公司所制造的产品。

**环保使用期限**



此标志适用于在中国国内销售的电子信息产品，表示环保使用期限的年数。所谓环保使用期限是指在自制造日起的规定期限内，产品中所含的有害物质不致引起环境污染，不会对人身、财产造成严重的不良影响。  
环保使用期限仅在遵照产品使用说明书，正确使用产品的条件下才有效。  
不当的使用，将会导致有害物质泄漏的危险。

**产品中有害物质的名称及含量**

部件名称	有害物质					
	铅(Pb)	汞(Hg)	镉(Cd)	六价铬(Cr(VI))	多溴联苯(PBB)	多溴二苯醚(PBDE)
外壳(壳体)	×	○	○	○	○	○
电子部件(印刷电路板等)	×	○	×	○	○	○
附件(电源线、交流适配器等)	×	○	○	○	○	○

本表格依据SJ/T 11364的规定编制。

○: 表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在GB/T 26572 规定的限量要求以下。

×: 表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出GB/T 26572的限量要求。

(企业可在此处, 根据实际情况对上表中打“×”的技术原因进行进一步说明。)

English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

For the USA

## DECLARATION OF CONFORMITY Compliance Information Statement

Model Name : JD-Xi  
Type of Equipment : SYNTHESIZER KEYBOARD  
Responsible Party : Roland Corporation U.S.  
Address : 5100 S. Eastern Avenue Los Angeles, CA 90040-2938  
Telephone : (323) 890-3700

For the USA

## FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION RADIO FREQUENCY INTERFERENCE STATEMENT

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses, and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- (1) this device may not cause harmful interference, and
- (2) this device must accept any interference received, including interference that may cause undesired operation.

This equipment requires shielded interface cables in order to meet FCC class B limit.

Any unauthorized changes or modifications not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate the equipment.

For Canada

CAN ICES-3 (B)/NMB-3 (B)

For Korea

## 사용자 안내문

기종별	사용자 안내문
B 급 기기 (가정용 방송통신기자재)	이 기기는 가정용(B 급) 전자파적합기기로서 주로 가정에서 사용하는 것을 목적으로 하며, 모든지역에서 사용할 수 있습니다.

Manufacturer: 2036-1 Nakagawa, Hosoe-cho, Kita-ku, Hamamatsu, Shizuoka 431-1304, JAPAN  
Importer: ENA 23 Zone 1 nr. 1620 Klaus-Michael Kuehnelaan 13, 2440 Geel, BELGIUM







## Roland Service Centers and Distributors

When you need repair service, access this URL and find your nearest Roland Service Center or authorized Roland distributor in your country.

<http://roland.cm/service>



English

日本語

Deutsch

Français

Italiano

Español

Português

Nederlands

 **Roland**

